



いざというとき
自分の命を守るために

茨城町消防長
塙 隆一

災害対応のプロに聞く
万が一に備える心構え

災害発生時、一瞬の判断が生死を分けることもあります。災害時に慌てず落ち着いて行動できるよう、災害について知り、事前の備えをしましょう。また、冷静に身の安全を図れるように、自宅や職場だけではなく、いろいろな場所に応じた注意点を覚えておきましょう。地震の備えでは、大型の家具に転倒防止器具を取りつけ、固定するなどの対策をしておくことも大切です。

被災後は断線した電線がないか、落下・倒壊しそうな危険物がないか、道路の陥没がないかなど周囲の安全確認にも気を配りましょう。

Check!!

それぞれの情報が出されたら
どう行動すべき？



避難指示（緊急）

災害が発生する等、人的被害の危険性が非常に高まった場合に発令されます。

避難指示（緊急）が出たら…

まだ避難していない場合は、ただちに避難しましょう。外出することが危険な場合には、自宅内で安全な場所に留まりましょう。

避難勧告

災害による被害が予想される地域の住民に対して、避難を勧める情報です。

避難勧告が出たら…

避難場所へ避難しましょう。

避難準備・高齢者等避難開始

避難勧告や避難指示（緊急）の発令が予想される場合に発令されます。

この情報が出たら…

いつでも避難できるように準備しましょう。避難に時間を要する方（高齢の方、障がいのある方、乳幼児をお連れの方）は避難を開始しましょう。

上に行くほどより緊急



特集

防災

災害への備え

大きな被害をもたらした東日本大震災から7年を迎えます。もし、今大きな地震が起きたら、あなたはどの行動をしますか？いつ起こるか分からない災害には、日ごろの備えが不可欠です。今回は災害から命を守るための備えについて考えてみましょう。

3 地震後

正しい情報を把握

- ・ラジオやテレビなどから正しい情報を得る。
- ・ブレーカーやガスの元栓を確認。
- ・わが家の安全を確認したら、近所の安否を確認。

2 地震直後

落ち着いて行動を

- ・家族の安全を確認。
- ・火を使っているときは、揺れが収まってから落ち着いて火を始末。
- ・避難できるよう出口を確認。

1 地震発生

自分の安全を確保！

- ・揺れを感じたときは自分の安全を確保。
- ・物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動しない」空間に身を寄せ、揺れが収まるまで様子を見る。

地震が起きたときの行動



東日本大震災発生
茨城町でも震度6弱を観測

平成23年3月11日に発生した東日本大震災。宮城県三陸沖を震源地として最大震度7の地震が発生し、茨城町でも震度6弱を観測しました。町内では27棟の住宅が全壊し、瓦の崩落や建物にひびが入るなどの被害が数多く報告され、水道や電気などのライフラインが途絶えました。また、学校や消防署などの公共施設が被災し、町民の皆さんの生活にも大きな影響を及ぼしました。

取り戻した日常と 震災から学んだこと

水は不足し、街の明かりも消えたまま。東日本大震災が起きたことにより、これまでのライフラインが一瞬にして途絶えました。あの日から7年が経過し、日常を取り戻した現在。しかし、当時がそうだったように、災害は突然私たちに襲いかかります。そのようなとき、日ごろの備えが私たちを助けてくれます。災害への備えをできることから始めてみませんか。

大切なのは「自助・共助・公助」

災害はいつどこで起きるか分かりません。しかし、日ごろから防災対策をしておくことで、被害を少なくすることはできます。災害による被害をできるだけ少なくするためには、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」が重要だと言われています。

その中でも基本となるのは「自助」、一人ひとりが自分の身の安全を守ることです。特に災害が発生したときは、まず、自分が無事であることが最も重要です。「自助」に取り組むために、災害に備え、自分の家の安全対策をしておくとともに、家外において地震や津波などに遭遇したときの身の守り方を知っておきましょう。また、身の安全を確保し、生き延びていくためには、水や食料などの備えをしておくことも必要です。

防災対策には、絶対大丈夫というものはありません。一人ひとりが、自分の周りどのような災害の危険が及ぶのかを考え、その被害を少なくするために必要な対策を講じることが重要です。